

学 位 論 文 要 旨

研究題目 The relation between emotion regulation and migraine:
A cross-cultural study on the moderating effect of culture
(感情調節と片頭痛の関係：文化による緩和効果に関する異文化間研究)

兵庫医科大学大学院医学研究科
医科学専攻
高次神経制御系
神経内科学
(指導教授 木村 卓)
氏 名 ボルフ ヨハンナ

本研究は、片頭痛症状と感情調節の関係を欧米とアジアで直接比較した最初の横断研究である。感情調節には、ネガティブな状況に対して解釈を変化させることによって感情を変化させる方略である「再評価」と、感情を抑える「感情抑制」がある。「再評価」によってネガティブな感情が減少して健康に寄与するとされる。一方、「感情抑制」はストレス増加や交感神経系の活性化などを引き起こすとされる。ただし、これまでの検討は主として欧米における報告であり、感情調節が身体に及ぼす影響については文化間で異なる可能性がある。このため、欧米文化圏における従来の知見がアジア文化圏において同様に適応できるかどうかは不明である。また、片頭痛症状に対して感情調節がどのように影響するかについてほとんど評価されていない。そこで本研究では、片頭痛を有する 18 歳以上 65 歳までの日本人（富永病院頭痛センター通院患者と公募参加者）とドイツ人（Headache and Migraine Clinic, Königstein 通院患者と公募参加者）を対象に、片頭痛症状と感情調節の関係についてオンライン調査プラットフォームを用いて比較検討を行った。合計 1131 人が調査に参加し、選択基準不適合例や不適切回答例を除外した最終 698 人（日本人 261 人、ドイツ人 347 人）を解析した。その結果、感情調節尺度 ERQ の下位尺度である「再評価」、抑うつ尺度 (HADS-D)、頭痛インパクトテスト (HIT-6)、身体症状スケール (SSS-8)、心気症尺度 (SHAI)、頭痛の性状(片頭痛日数、片頭痛強度)については両群間で差を認めなかった。一方、日本人はドイツ人に比して ERQ の下位尺度「感情抑制」が有意に高く (3.90 vs. 3.51, $p<0.01$)、不安尺度 (HADS-A) が有意に低値 (6.97 vs. 7.90, $p=0.002$) であった。また、日本人とドイツ人のいずれの群においても、感情調節と頭痛症状との相関は認めず、文化の相違は感情調節と頭痛症状間の相関に影響を与えていなかった。これらの所見から、片頭痛では感情調節様式と不安強化様式の違いを認識して治療を行う必要がある。また、感情調節は片頭痛の増悪および維持に影響していなかったことから、感覚刺激の処理様式を考慮したストレスに対する個々の反応パターンに焦点を当てて治療する必要がある。